

2019（平成 31）年度事業計画

日本鑄造工学会は、2011 年 4 月に公益社団法人として登記された。これを機に、新定款第 3 条(目的)「鑄造工学に係る学術及び技術の振興を図り、日本および世界のものづくり基盤産業の発展に寄与し、社会の豊かな生活を実現することを目的とする」に合致した公益事業を展開すべく 2014 年に第 2 期長期ビジョン（第 1 期は 2009 年）を作成し活動してきた。5 年を経過する中で、これまでの活動を振り返り、さらなる飛躍を目指して第 3 期長期ビジョンの作成に向けた活動を行うとともに、将来の人材育成を戦略的に行う活動及び、産業界からの要望に応えるべく、様々な活動を積極的に展開する。

公益事業としては、公 1：鑄造工学に関する学術講演会、講習会等の開催事業、公 2：鑄造工学に関する調査研究及び相談事業、公 3：鑄造工学に関する表彰及び奨励事業、公 4：鑄造工学に関する広報誌等発行による普及啓発事業、そのほか、他 1：会員に頒布する図書発行事業、他 2：鑄造工学に関する相談事業の 6 つの区分にしたがって従来以上の活動を計画推進する。

学会活動にあたり事務局移転などに伴う学会運営上の経済的課題も多く、経費削減活動を強化し、無駄を省く活動を展開する。

今年度において実施を計画している事業は以下のとおりである。

1. 学術講演会、講習会等の開催事業（公 1）

国内の鑄造業界においては、さまざまな課題が山積している。伝統的な鑄造技術を受け継ぎ、さらにそれらを後世まで残していけるような息の長い人材の育成、さらに海外との競争力強化、経営基盤の強化、環境対策、さらに鑄造産業自体を広く国民に理解していただく努力も必要である。今後は業界全体でこれらの課題に取り組み、日本全体の利益に寄与していくことが重要となっていく。

活動としては、全国講演大会を春と秋の 2 回開催し、今まで未発表の研究成果を発表し、討論を行う。同時に技術講習会、シンポジウム、若手鑄造技術者を中心とする YFE 大会、さらに現場技術者の「現場目線での発表会場」を追加し、現場技術改善事例や OS などを行う計画である。また鑄造関連工場の見学会、鑄造関連商品やその技術に関する展示会などの諸行事も同時に開催し、一般市民や会員にとっての交流の場をつくる。特別講演や招待講演として、韓国、中国などの鑄造工学会との交流講演や国内要人の講演を計画している。これから将来を担っていただく方々を対象に、鑄物や鑄造技術を身近に感じることができる「こども鑄物教室」、「いもの体験教室」や工場見学会により、鑄造産業自体を広く国民に理解していただく機会を設け、鑄造工学や鑄物製品に初めて触れ、それを端緒にして、鑄造技術を受け継いでいく人材の育成を図ることにも寄与する。また、高校生を対象に北海道から始まった「理系応援プロジェクト」が、関東及び東海支部へ広がり、更に全国的に拡大する予定である。「鑄造業向け材料力学入門講座」を全国的に展開することに加え、地域に密着し時宜を得たテーマを選び、講演会、講習会を実施していく。その他、関連団体との共催による講演会、講習会、研修会の開催を行う。

(1) 講演大会

① 第 173 回全国講演大会

開催日 2019 年 5 月 17 日～20 日

- | | |
|----|--|
| 場所 | 千葉工業大学 津田沼キャンパス (千葉県習志野市) |
| 行事 | <ul style="list-style-type: none"> a. 研究発表講演会 b. パネルディスカッション c. オーガナイズドセッション「精密鑄造研究部会」「現場技術改善事例」 d. YFE (若手鑄造技術者) 大会 e. こども鑄物教室 f. 工場見学会 g. 懇親交流会 h. 技術展示会 |

②第 174 回全国講演大会

- | | |
|-----|--|
| 開催日 | 2019 年 9 月 27 日～30 日 |
| 場所 | 福岡国際会議場 (福岡市博多区) |
| 行事 | <ul style="list-style-type: none"> a. 特別講演 b. 研究発表講演会 c. オーガナイズドセッション d. 学生鑄物コンテスト e. こども鑄物教室 f. 工場見学会 g. 懇親交流会 h. 技術展示会 |

③ 講演会

- a. 論文賞受賞記念講演を春季全国大会時に開催する。
- b. 日下賞受賞記念講演を春季全国大会時に開催する。
- c. 西山圭三賞受賞記念講演を秋季全国大会時に開催する。
- d. 技術賞, 豊田賞受賞記念講演を秋季全国大会時に開催する。
- e. 日韓 YFE を開催する。
- f. 北海道支部講演大会 (4 月 19 日 帯広)
- g. 東北支部 支部大会 4 月 18 日～19 日 (秋田市)
- h. 加山記念講演会 (関東支部 4 月 22 日 東京)
- i. 講演会 (一社) 日本鑄造協会北陸支部との共催 (4 月 24 日 石川県)
- j. 特別講演会 (東海支部 4 月 名古屋市)
- k. 若手討論会 (東海支部 10 月 長野県)
- l. 支部創立 70 周年記念特別講演会 (懇談会) (東海支部 10 月 名古屋市)
- m. 技術講演会 (東海支部 11 月 三重県, 2 月 静岡県)
- n. 講演大会 (関西支部 2 回: 春・秋)
- o. 鑄造技術講演会 (中国・四国支部 4 月)
- p. 第 72 回講演大会 (九州支部 4 月)

(2) 技術講習会

- ①「鑄造分野におけるバーチャルエンジニアリングの最新動向」2019 (平成 31) 年 5 月 17 日 (千葉工業大学)
- ② 学生鑄物コンテストの開催(本部 企画委員会主催)
- ③「(テーマ未定)」2019(平成 31)年 9 月 27 日 (福岡国際会議場)
- ④ 第 19 回夏期・鑄造技術講座 (東北支部 8 月下旬)
- ⑤ 「IoT に関するテーマ」(北陸支部 11 月 石川県)

- ⑥ 基礎講座(鑄鉄) (東海支部 6月 刈谷市)
 - ⑦ 非鉄専門講座 (アルミニウムダイカスト) (東海支部 9月 刈谷市)
 - ⑧ 中級講座 (鑄鉄) (東海支部 9月 刈谷市)
 - ⑨ 非鉄専門講座 (アルミニウム鑄物) (東海支部 11月 刈谷市)
 - ⑩ 講習会 (鑄造セミナー) (関西支部 8月末:本部と共催)
 - ⑪ 鑄造技術講習会 (中国・四国支部 12月)
 - ⑫ 鑄造初級講座 (九州支部)
- (3) シンポジウム
- ① 研究部会の成果を報告するシンポジウムを3回開催する。
- (4) YFE 大会
- ① 東北支部第27回 YFE 大会 (11月 秋田県)
 - ② ものづくりプロジェクト (東北支部9月 秋田県)
 - ③ YFE 大会 (春季全国講演大会時 5月 習志野市)
 - ④ 鑄造技術勉強会 (北陸支部 7月 氷見市)
 - ⑤ YFE 懇話会 (東海支部 4回/年)
 - ⑥ YFE 研修会 (関西支部 3月 関西鑄造技士会と共催)
 - ⑦ いいもの研究会 (中国・四国支部 7月, 2月)
- (5) 工場見学会
- ① 工場見学会 (北陸支部 10月 長野県)
 - ② 工場見学会 (東海支部 9月 愛知県, 10月 長野県)
 - ③ YFE による会社見学会 (関西支部 未定)
- (6) 鑄造体験実習
- ① 理系学生応援プロジェクト (北海道支部, 関東支部, 東海支部)
 - ② 鑄造体験セミナー (東海支部 愛知県)
 - ③ 高校生対象の鑄物教室・工場見学会 (関西支部 未定)
- (7) こども鑄物教室
- ① 鑄物体験教室 (こども鑄物教室) の開催 (関東支部)
 - ② こども鑄物教室 (北陸支部 8月 石川県)
 - ③ こども鑄物教室 (YFE 社会貢献事業) (中国・四国支部)
- (8) 海外交流講演会
日韓 YFE への参加 (韓国)
- (9) 鑄造カレッジの開催 (一般社団法人日本鑄造協会に協力) (関東, 東海, 関西の3地区で開催 6月開講)
- (10) 鑄造カレッジ上級コースの開催 6月開講 (一般社団法人日本鑄造協会に協力)
- (11) (一財)素形材センターとの共催による研修講座, 技術セミナーの開催

2. 鑄造工学に関する調査研究及び相談事業 (公2)

鑄造工学に関する各技術分野の専門家による, 鑄造工学に関する研究, 調査, 技術交流事業を行う。下記の研究部会の研究成果, それに基づく研究報告書に関するシンポジウム等を開催し, その研究成果を公開する。調査研究の結果を実際の実務, 業務に生かすため, 鑄造に関する工場見学会を行うなど, 現場での技術交流を深める。研究活動の成果は研究報告書として発行し, その有効活用に努める。広く鑄造工学に関する情報や資料の収集を行い, その技術的な研究を発表することで日本の経済, ものづくりの発展に寄与する。

- (1) 研究部会活動の推進と研究報告書, レビュー記事などの発表を行う。(3回)

- (2) シンポジウムの開催による研究部会成果の公開を行う。(3回)
- (3) 全国講演大会時にオーガナイズドセッションを開催し、部会活動の成果を報告する。(春季及び秋季大会時)
- (4) 技術研究会(2つのテーマ)を適宜開催する。(北海道支部)
- (5) 企画技術委員会を開催する。(北海道支部)
- (6) 鑄造技術部会(東北支部 第99回 7月下旬 山形県, 第100回 2月中旬 岩手県)
- (7) 現場鑄造技術研究会(関東支部 企画委員会 1回, 研究会 3回)
- (8) 研究部会(東海支部 4回/年)
- (9) 関西鑄造懇話会(関西支部 3回)
- (10) 消失模型研究会(関西支部 4回)
- (11) 支部研究発表会(中国・四国支部 12月)
- (12) YFE 鑄造技術研究会(中国・四国支部 鑄造技術研究会 1回, YFE「いいもの」研究部会 2~3回, 鑄物教室 1回)
- (13) 九州鑄物研究会(九州支部 3回)
- (14) YFE 勉強会(九州支部 1回)

さらに鑄造工学に関する相談事業として「鑄造工学に関する技術相談」を行う。具体的には下記の内容である。

鑄造工学に関する技術的な相談をしたいと考える一般市民の方々から、相談を受け、学会内の技術力を有する相談員がこれに応じ、広く一般市民の鑄造工学に関する技術的な問題解決に寄与し、鑄造工学の向上、ひいては日本の製造業の発展に寄与するものである。

3. 表彰及び奨励事業(公3)

将来の鑄造産業及び日本の製造業発展のため、優れた業績を挙げた会員や一般市民には日本鑄造工学会大賞をはじめ13種類の表彰を行う。2012年度から開始した、優れた鑄物の製造や開発に対するキャストィングスオブザイヤー賞をさらに充実させる。その他、学術講演会では研究成果を発表した学生の優秀講演に対する表彰の実施、鑄造関連企業に就職した大学等の卒業生には奨励賞制度を設けている。また、寄附金をもとに設定した基金から、若手研究者の研究、海外等での発表に対する活動支援、新東工業鑄造技術研究奨励制度により研究や活動を支援する。

地域に密着した表彰及び奨励制度により、支部において選考された方々の表彰、奨励を行う。

(1) 表彰

a. 本部関係

日本鑄造工学会大賞(1件)、優秀論文賞(1件)、論文賞(3件)、クボタ賞(2件)、飯高賞(2件)、西山圭三賞(1件)、功労賞(5件)、技術賞(5件)、網谷賞(5件)、豊田賞(3件)、日下賞(2件)、キャストィングスオブザイヤー賞(2件)の授与

b. 支部関係

- ① 北海道支部関係 長岡金吾賞, 支部功労賞, 支部奨励賞の授与
- ② 東北支部関係 大平賞, 金子賞, 堀江賞の授与
- ③ 関東支部関係 現場技術改善賞の授与
- ④ 東海支部関係 支部賞, 堤記念賞, 功労賞, 功績賞, 岩田奨励賞
感謝状の授与
- ⑤ 関西支部関係 石野賞, 功労賞, 技術功労賞, 研究奨励賞の授与

⑥ 中国・四国支部関係 片島賞，功労賞，支部奨励賞の授与

⑦ 九州支部関係 技能功労賞，技術奨励賞の授与

(2) 奨励

a. 本部 若手研究奨励 (6名以内)，若手活動支援 (2名以内)，
新東工業鑄造技術研究奨励 (1名以内)

b. 支部 東海支部 研究奨励，研究部会奨励の実施
関西支部 研究奨励の実施

4. 鑄造工学に関する広報誌等発行による普及啓発事業 (公4)

学会誌「鑄造工学」を引き続き毎月発刊する。最新の研究論文，技術論文をはじめ技術報告，解説，連載講座，現場技術改善事例，レビューの他，鑄造業界の要人のインタビュー記事やQ&Aコーナーを継続する。特集は3回組み，研究者，技術者及び経営者のいずれの方々にも役立つ情報を掲載する。また英文誌「Materials Transactions」の13学協会との共同発刊に協力するとともに，本学会会員の投稿を積極的に推進する。会誌のWeb公開 (J-STAGE 登載) は，第85巻 (2013年) まで完了し，今年から，第86～最新号について，研究論文，技術論文を公開する。また，支部においては地域の会員などとの魅力ある活動の一環で，地域に特徴をもった支部会報の発行を進め，普及を図る。

(1) 学会誌「鑄造工学」の定期発刊

会誌「鑄造工学」第91巻第4号より第92巻3号までの12冊を発行する。
特集記事を5月，8月，12月に掲載する。

(2) 全国講演大会講演概要集を5月，9月に発行する。

(3) 技術講習会テキストを5月，9月に発行する。

(4) シンポジウムテキストを3回発行する予定である。

(5) 研究報告書はNo. 125～126を発行予定である。

(6) 支部会報発刊 (北海道支部 第147号 4月発行)

(7) 支部会報発刊 (東北支部 第55号 2020年3月)

(8) 関西支部報 (関西支部 第6号 4月)

(9) 支部会報「こしき」42号の発行 (中国・四国支部 12月)

5. 会員等に頒布する図書発行事業 (他1)

専門誌，図書発行を行う。当事業では，鑄造研究者，鑄造技術者向けに鑄造工学に関する専門誌を発行し，会員はじめ鑄造関連技術者相互の利益を図る。

主に鑄造分野の特定領域について深く掘り下げた専門性の高い内容を図書としているもので，多くの発刊が望めないものであるが，鑄造分野においては必要不可欠な，将来に残すべき内容をまとめて発刊する。その分野の先進の専門家が編集委員会を組織し，データの収集と編集を行う。

(1) 研究報告書，テキストなどの発行

(2) 既刊刊行物の改訂版発刊の検討

6. 鑄造工学に関する技術相談事業 (他2)

会員の相互扶助事業として，鑄造工学に関する下記の相談事業を行う。

① 鑄造工学に関する技術相談事業

② 鑄造工学に関する論文執筆相談事業

③ 現場技術改善事例執筆相談事業

鑄造に関する論文執筆作成に資するため、投稿までの論文執筆や現場技術改善事例に関し、まとめ方や執筆の仕方をアドバイスする「論文執筆アドバイザー」及び「現場改善事例執筆アドバイザー」制度により、投稿論文や現場技術改善事例を投稿できるようにする。

7. その他、本会の目的を達成するための事業

- (1) 国内関係
 - ① (公社)日本工学会など関連学会との協力
 - ② (一社)日本鑄造協会, (一財)素形材センターと協力して各種研修会等を開催.
 - ③ 関連する工業会, 支部との連携を強化する.
- (2) 国際関係
 - ① 世界鑄造機構 WFO への参画
 - ② 中国鑄造学会, 韓国鑄造工学会との交流
 - ③ 来日外国学識者との交流
 - ④ 海外開催学会への派遣
 - ⑤ 海外技術動向調査

8. 本会の法人管理・運営に関する事業

- (1) 2019 (平成 31) 年度定時社員総会 (2019 年 5 月 18 日)
その他, 各支部において支部総会を開催 (4 月 北海道, 東北, 関東, 北陸, 東海, 関西, 中国・四国, 九州支部)
- (2) 理事会の開催
 - a. 本部 7 回開催
 - b. 支部 2~8 回開催 (各支部)
- (3) 各種委員会の開催 (本部関係)
 - ① 企画委員会 (2 回開催)
 - a. 会員満足度向上のための諸企画について検討・立案を図る.
 - b. 会員増強に資するための非会員に対する学会知名度向上策についての検討・立案.
 - c. 鑄造関連団体との連携強化策についての検討・立案.
 - d. 大学生を対象に鑄物コンテストの開催を計画する.
 - e. 若手・中堅技術者を対象に鑄造技術に関する講習会を開催する.
 - ② 編集委員会 (本委員会 12 回, 合同編集委員会 2 回開催)
 - a. より一層充実した学会誌を目指して, 掲載記事の拡充及び充実を図る.
 - b. 英文誌「Materials Transactions」共同刊行を推進する.
 - ③ 国際関係委員会
 - a. 日本・韓国・中国鑄造学会との交流の推進を行う.
 - b. 日韓 YFE の推進を行う.
 - c. WFO への参画.
 - ④ 研究委員会 (2 回開催)
 - a. 研究報告書の編集・発刊を推進する.
 - b. シンポジウムを開催する.
 - c. 全国講演大会時にオーガナイズドセッションを開催する.
 - ⑤ YFE 委員会 (2 回開催)
 - a. 「こども鑄物教室」, 「鑄物体験教室」を企画, 推進する.

- b. 若手鋳造技術者，研究者による研究発表や技術交流を図る.
 - c. 日韓 YFE への参加，YFE 講演大会を開催する.
 - d. 理系学生応援プロジェクトを全国に拡大展開する.
- ⑥ 財務委員会（2回開催）
- a. 財政強化のための施策を検討，推進する.
 - b. 会計業務の監督，指導を行い，財政の健全運営を図る.
- ⑦ 人材育成委員会
- a. (一社)日本鋳造協会との合同委員会により「鋳造カレッジ・中核人材育成事業」を推進する. 引き続き鋳造カレッジ上級コースを開催する.
 - b. (一財)素形材センターの研修講座，技術セミナーの共催を推進する.
- ⑧ 広報委員会
- a. 学会ホームページの充実を図る.
 - b. メーリングリストを活用した学会情報の定期配信を進める.
 - c. 鋳造関連のデータベースを検索できるシステムを作成する.
 - d. 学会誌を早期に閲覧できるシステムを促進する.
- ⑨ 学会ビジョン委員会（2回開催）
- a. 学会ビジョン委員会で第3期長期ビジョンの作成に取り組む.
- (4) 委員会（支部関係）
- ① 企画技術委員会（北海道）
 - ② 広報委員会（関東）支部便りを編集し，ホームページへ掲載公開する.
 - ③ 人材育成委員会（関東）3回開催 関東地区の鋳造カレッジ及び新人教育講座の開催を支援する.
 - ④ 企画委員会（北陸 3回）講演会，技術講習会，工場見学会などの行事を企画する.
 - ⑤ 研修講座運営委員会（関西支部（一財）素形材センターとの共催で「鋳鉄の基礎と応用」を開催企画する，日時未定）
 - ⑥ YFE 委員会（関西支部） 自己研鑽活動の一環として鋳造にとらわれない製作現場を訪問する.